



コウガの森・共和から

園長 小林 崇

お泊り保育から

異常な暑さを記録した猛暑の夏も漸く秋の兆しが見え始め、園の庭でも裸足で遊ぶ子どもたちの姿が見られるようになりました。酷暑のため室内での活動が続きましたが、今月はたくさん戸外で遊びたいと考えています。10月7日（日）は園の運動会では、1人1人の成長の姿を見ていただけるでしょう。

さて、8月7日（火）・8日（水）に年長児のお泊り保育を梅花保育園と合同で実施しました。例年、お泊り保育は群馬県藤岡市の鬼石野外活動センターを基地にして、川遊びや野外炊事などを体験します。今年度のお泊り保育で最も嬉しかったことは、子どもたちがどの活動も楽しんで参加してくれたことです。お泊り保育ではシャワークライミング（源流体験）、野外炊事、キャンプファイヤー、散歩、森の探検、製作、流しそうめんなど2日間の中に経験が凝縮されています。

活動の合間では、教えてもらったキャンプの歌をお友達と自然に歌いあい、互いに楽しんでいる様子や園対抗の競技で勝利した自園のチームを別のチームになった子が駆け寄って喜んで見られました。活動を主体的に楽しみ、お友達と楽しいことを共有している姿から、子どもたちの心の成長と担任と作り上げた絆を感じられたことに喜びを感じています。

一方で、課題も確認した行事でした。お泊り保育では夕食はよく食べるが、朝食はなかなか進まないという傾向がありました。ところが、今年一緒にいった梅花保育園の年長児・とんぼ組の圧倒的な食欲に驚かされました。朝食をしっかりと完食している姿にこれからの成長への期待を感じました。

後日、この食べる姿が見られるようになったのは、一朝一夕ではないことを知りました。とんぼ組を1歳児から持ち上がりで担任をしている梅花保育園の職員は小さい頃から子どもたち食事と格闘し、出されたものをしっかりと食べる習慣をつくってきたそうです。改めて、乳児期からの食習慣の形成が重要であることに気づかされました。

今月号の園便りでは、クラスの便りにも食事に関する記載が多くあります。各家庭におかれても、食事は悩みの多いテーマであると思います。また、園と家庭とで共同して行なう課題であると考えています。心配やお悩みは、担任までお声掛けください。

お泊り保育は来年度も同じ場所で、梅花保育園の園児と共同で行ないます。実施は2019年7月9日（火）・10日（水）を予定しています。